

横浜市感染症発生動向調査報告 6月

《今月のトピックス》

- ジカウイルス感染症(輸入例)の報告が1件ありました。
- 咽頭結膜熱の報告が例年より多くなっています。
- 流行性耳下腺炎の報告が例年より多い状態が続いています。
- 流行性角結膜炎、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告が例年より多くなっています。

全数把握の対象

【6月期に報告された全数把握疾患】

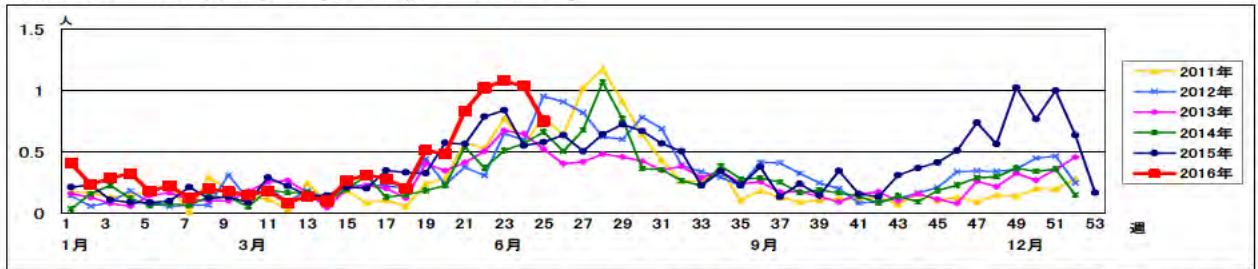
腸管出血性大腸菌感染症	7件	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	7件
E型肝炎	1件	急性脳炎	3件
A型肝炎	2件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件
ジカウイルス感染症	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	4件
ボツリヌス症	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2件
マラリア	2件	侵襲性肺炎球菌感染症	13件
レジオネラ症	2件	水痘(入院例に限る)	4件
アメーバ赤痢	4件	梅毒	15件
ウイルス性肝炎	1件		

- 腸管出血性大腸菌感染症: O157が5件、O115が1件、O26が1件報告されています。O157のうち2件は同居家族です。
- E型肝炎: 1件の報告があり、国内での経口感染が推定されています。
- A型肝炎: 2件の報告があり、いずれも感染原因は不明で、ワクチン接種歴は確認できませんでした。
- ジカウイルス感染症: 中南米の流行地域での蚊の刺咬歴のある帰国者で1件の報告がありました。
- ボツリヌス症: 4か月の乳児で1件の報告があり、感染経路は不明です。
- マラリア: 2件の報告があり、それぞれウガンダ、ガーナからの帰国者でした。
- レジオネラ症: 2件の肺炎型の報告があり、いずれも感染経路等不明でした。
- アメーバ赤痢: 4件の報告があり、2件は国内での性的接触が推定され、2件は感染経路等不明でした。
- ウイルス性肝炎: 1件のB型の報告があり、中国での性的接触によるものと推定されます。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 7件の報告があり、うち5件は以前からの保菌で、2件はドレーン、手術部位からの感染と推定されます。
- 急性脳炎: 3件の乳幼児の報告がありました。いずれも病原体不明です。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: A群が1件、G群が1件報告され、創傷感染が推定されています。
- 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): AIDSの報告が同性間の性的接触にて1件、無症状病原体保有者の報告が同性間の性的接触にて2件、その他の報告が感染経路等不明にて1件ありました。
- 侵襲性インフルエンザ菌感染症: 2件の報告があり、いずれもワクチン接種歴は確認できませんでした。
- 侵襲性肺炎球菌感染症: 乳児は1件の報告がありワクチンは4回目が未接種、幼児は3件の報告があり4回のワクチン接種歴が確認されました。高齢者は6件の報告があり、うち2件はワクチン接種歴が確認されましたが、4件についてはワクチン接種歴は確認できませんでした。
- 水痘(入院例に限る): 小児の報告が2件、成人の報告が2件ありました。
- 梅毒: 15件の報告(無症状病原体保有者6件、早期顕症梅毒Ⅰ期7件、早期顕症梅毒Ⅱ期2件)があり、うち12件が国内感染例で、3件は感染地域不明でした。感染経路は11件が性的接触、4件が感染経路不明でした。

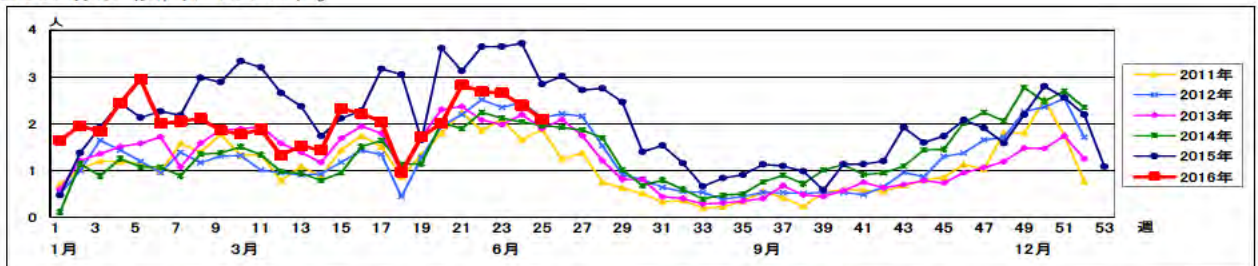
定点把握の対象

平成28年 週一月日対応表	
第22週	5月30日～6月 5日
第23週	6月 6日～6月12日
第24週	6月13日～6月19日
第25週	6月20日～6月26日

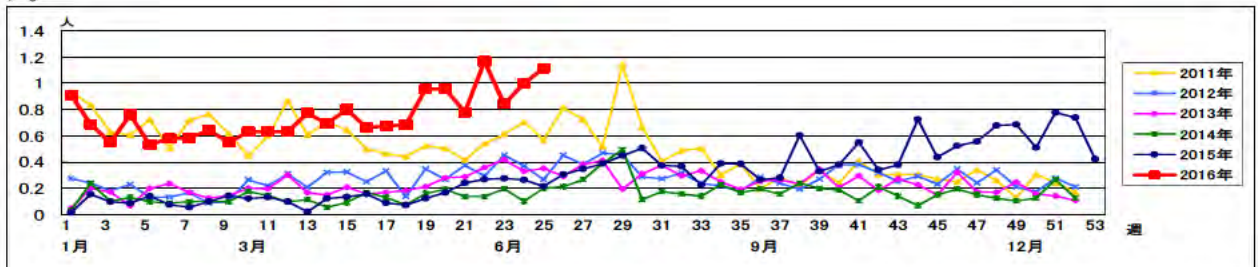
- 1 咽頭結膜熱:第23週で定点あたり1.08をピークとして推移しています。例年に比べて報告が多い状況が続いています。



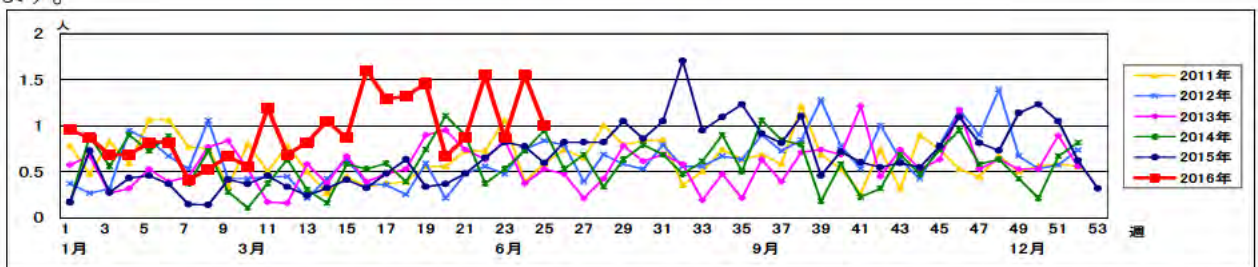
- 2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎:第21週で定点あたり2.82でしたが、その後、第24週で2.39、第25週で2.10と減少傾向にあります。



- 3 流行性耳下腺炎:第25週で定点あたり1.11と例年に比べて報告が多い状態が依然として続いています。



- 4 流行性角結膜炎:第24週で定点あたり1.55、第25週で1.00と例年に比べて報告が多い状態が続いています。



- 5 性感染症:5月は、性器クラミジア感染症は男性が30件、女性が16件でした。性器ヘルペス感染症は男性が6件、女性が4件です。尖圭コンジローマは男性5件、女性が8件でした。淋菌感染症は男性が14件、女性が1件でした。
- 6 基幹定点週報:無菌性髄膜炎は第24週0.25と今年初めて報告がありました。マイコプラズマ肺炎は第22週0.50、第23週0.33、第24週0.50、第25週0.00と報告されています。感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)は第22週0.50、第23週1.00、第24週0.25、第25週0.33と報告されています。細菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。
- 7 基幹定点月報:5月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症6件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症2件、薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

<ウイルス検査>

6月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点42件、内科定点8件、眼科2件、基幹定点4件で、定点外医療機関からは5件でした。

7月8日現在、ウイルス分離8株と各種ウイルス遺伝子33件が検出されています。

表 感染症発生动向調査におけるウイルス検査結果(6月)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	イン フル エン ザ *1	R S 感 染 症	咽 頭 結 膜 熱 *2	手 足 口 病	ヘル パン ギー ナ	流 行 性 耳 下 腺 炎	急 性 脳 炎 ・ 脳 症	パ レ コ 感 染 症
インフルエンザ B型山形系統			1							
アデノ NT*3	1	1	1		1					
アデノ 2型				1						
アデノ 4型				1						
パラインフルエンザ 1型	1									
パラインフルエンザ 3型	1 3	1								
RS	1									
ヒトメタニューモ	1	1								
ヒトコロナ*4	1									
ヒトボカ	1		1				1			
ムンプス								2		
ライノ	1	2			1		1			
コクサッキー A 2型	1				1		1			
コクサッキー A 4型	1						3			
コクサッキー A 5型	1									
コクサッキー A 6型						1	1			
コクサッキー B 5型									2	
エコー 9型	1								2	
パレコ 3型									2	
合計	1 14	0 5	1 2	2 0	0 3	0 1	0 7	2 0	2 0	0 1

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

*1:疑いを含む、*2:アデノ感染症を含む、*3:型未同定、*4:HCoV 229E or NL63、HCoV OC43

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

6月の感染性胃腸炎は、基幹定点から6件、その他が11件で、腸管出血性大腸菌(O26:H11,VT1が1件、O115:H-,VT1が1件、O157:H7,VT1&2が2件)、サルモネラ(*S. Chester*)が検出されました。

その他の感染症は、小児科定点から4件、基幹定点から3件、その他から22件でした。その他のA群溶血性レンサ球菌T1型は劇症型溶連菌感染症の患者から検出されました。ボツリヌス菌はB型でした。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(6月)

感染性胃腸炎

菌種名	検査年月 定点の区別 件数	6月			2016年1月～6月		
		小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
		0	6	11	0	42	23
赤痢菌						1	
腸管出血性大腸菌				4	2	5	
チフス菌					2		
サルモネラ			1		9	2	
カンピロバクター						1	
黄色ブドウ球菌			1		1		
不検出		0	4	7	0	28	14

その他の感染症

菌種名	検査年月 定点の区別 件数	6月			2016年1月～6月		
		小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
		4	3	22	24	32	200
A群溶血性レンサ球菌	T1	1		1	3	1	
	T4	1			2		
	T6				1		
	T12				3	1	
	型別不能	2			11	2	
B群溶血性レンサ球菌						1	
G群溶血性レンサ球菌					2	1	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌					4		
バンコマイシン耐性腸球菌						1	
レジオネラ属菌						1	
インフルエンザ菌				2		3	
肺炎球菌				3	5	38	
黄色ブドウ球菌					1		
結核菌						103	
百日咳菌					1		
ボツリヌス菌				1		1	
その他			2	9	9	22	
不検出		0	1	6	3	11	25

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 微生物検査研究課 細菌担当 】